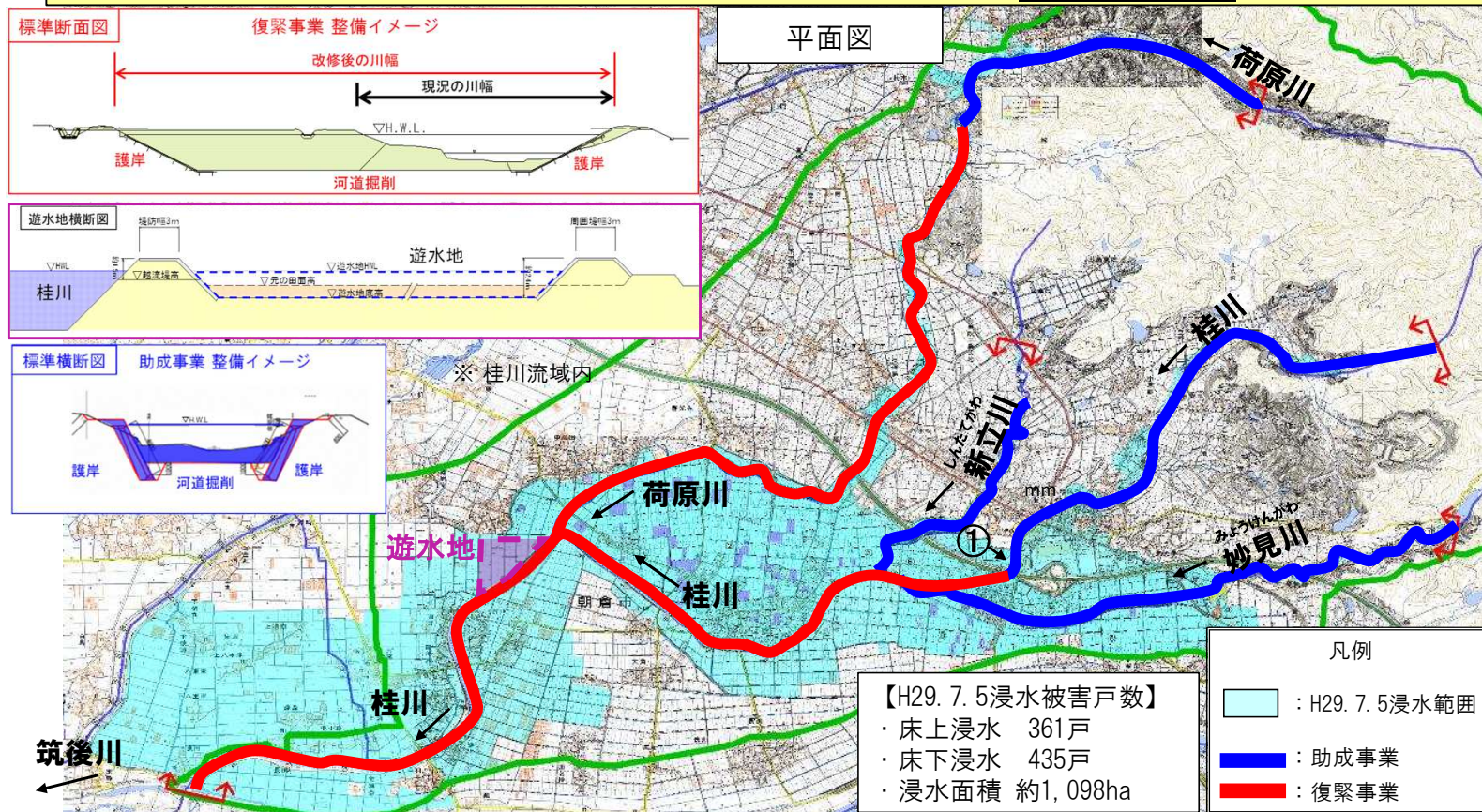


(事例) R5.7.7大雨 治水施設整備による効果 (一級河川筑後川水系桂川)

ちくごがわ かつらがわ

- 桂川流域(福岡県)では、平成29年7月九州北部豪雨により、床上361戸、床下435戸の甚大な浸水被害が発生
- 地域住民の生命と財産を守ることを目的とし、河川災害復旧等関連緊急事業等による河川改良復旧工事を実施
- 令和5年7月7日～7月10日の大雨では、H29年7月5日からの累加雨量608.0mmに対し、3/4程度の465mmを記録したが、河道改修工事で洪水を安全に流下させ、遊水地整備で計画貯留量満杯の約18万m3を貯留した効果により浸水被害を防止



【筑後川水系桂川、荷原川】

○実施事業

・ 災害復旧助成事業 (助成事業)

(桂川4.7km、荷原川2.6km、新立川2.2km、妙見川4.7km)

事業費 (採択時) : 約134億円

事業開始年度 : H29

・ 河川災害復旧等関連緊急事業 (復緊事業)

(桂川8.0km、荷原川6.5km)

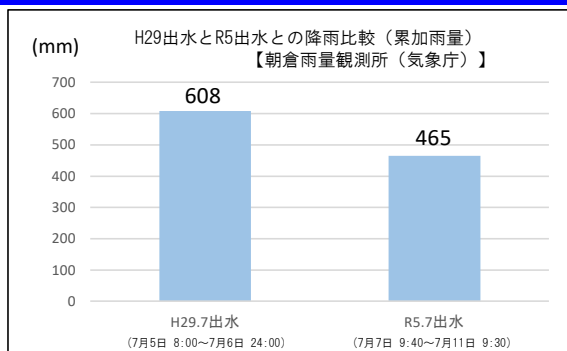
事業費 (採択時) : 約350億円

事業開始年度 : H29

○実施内容

河道掘削、築堤、護岸整備、遊水地 等

H29.7とR5.7との比較 (累加雨量)



治水効果 (H29年出水時の浸水範囲、戸数が解消)

